No.1207 (二〇一六年一月一日号)から
No.1230 (二〇一六年十二月一五日)まで

No.1207 (二〇一六年一月一日)

◇巻頭言◇ マルクス経済学の真髄

小林 晃著 「現代と『資本論』」を読む

信州松本と岩井章さん

— 『小さな花』の「お菜洗い」(上) —

悲願と悪夢

— 恥を知らない日本の独占資本と安倍政権 —

超个体(複合共生体)としての生命観

の示す教育課題(下)

参院選の構図

読者からのおたより

森 勉

中澤 秀行

原 野人

藪 芳郎

滝野 忠

No.1208 (二〇一六年一月一五日)

◇巻頭言◇ 二〇一六年を展望する

『小さな花』の「お菜洗い」

— 信州松本と岩井章さん(下) —

国鉄闘争の想い出と

菅原須摩子さんの存在

イスラム国(IS)消滅、中東世界の次は？

読者からのおたより

山下 俊幸

滝野 忠

相田 邦夫

中澤 秀行

No.1209 (二〇一六年二月一日)

◇巻頭言◇ あきらめない、選挙で勝つ

電力自由化と発送電の分離

— 目くらましが得意な、ずるがしこい独占資本と安倍政権 —

高浜原発再稼働阻止 現地と関電大阪本店で全国集会

— 京都で福井地裁裁判全関西報告集会(1・9)から1・24、1・27集会へ —

ウイン・フィルのニューイヤークンサートに想う

— 「ラデツキー行進曲」と「美しき青きドナウ」 —

向坂逸郎先生と原節子さん

抽象・理念 対 具体・現実

— 全国紙そして東京新聞 元旦の社説から —

読者からのおたより

渋谷 澄夫

原 野人

編集部

中澤 秀行

No. 1210 (二〇一六年二月十五日)

◇巻頭言◇ 生産性三原則に思想的反撃を

―一六春闘への基本的視点―

私たちはどんな時代に生きているのか

現代国家の政治と経済政策への基本的視点

―安保法制、原発再稼働、TPP、税制等で考える―

「息子への手紙」

―高浜原発再稼働を許さない闘いから―

政官財で国民をくいもの

―マイナンバーは国がつけた奴隷番号―

「旬刊 社会通信」ホームページのご案内

読者からのおたより

滝野 忠

松枝 佳宏

中澤 秀行

稲村 守

山下 けいき

No. 1211 (二〇一六年三月一日)

◇巻頭言◇ 私たちの学習会

大震災から5年

―大手ゼネコンに喰われる復興―

あれから5年がたつて

―福島原発の現実と安倍政権の暴走―

澤野義一著『脱原発と平和の憲法理論

―日本国憲法が示す平和と安全―』を薦める―

権力者・安倍 嘘・ごまかしの手法

読者からのおたより

国労上野支部反合併

相沢 瑞男

原 野人

稲村 守

編集部

No. 1212 (二〇一六年三月十五日)

◇巻頭言◇ 烏(カラス)は減った、政界渡り鳥は今も

とんでもない、国の原発事故「避難」計画

―帰りたいけど帰れない―

「アベノミクス通信簿」

―『週刊朝日』による「中間総括」―

東京総行動・経団連行動、西日本集会

―全労協 三月ストライキ闘争で賃上げを！―

木下栄治氏を悼む

―米澤 昭彦氏の「弔辞」―

読者からのおたより

原発事故被害者 相双の会

滝野 忠

小林 晃

全労協

編集部

No. 1213 (二〇一六年四月一日)

◇巻頭言◇ 搾取の度合いこそが肝要

春闘「集中回答(三月一六日)」結果から(一)

労働運動強化に向けて

野佐根 浩巳

― 国労中央委員会での発言 ―

反原発闘争―経過・現状・課題

井戸 謙一

― 3・13 びわこ集会 「基調報告」 ―

原発全廃！びわこ一周デモ2016 関電はびわこを汚すな！

稲村 守

「身を切る改革」とは何か

原 野人

― 国会議員の報酬は削減して定数は倍増すべき ―

憲法がさんぜんと輝く未来へ

― 新社会党結党二十年「大会宣言」 ―

読者からのおたより

No. 1214 (二〇一六年四月一五日)

◇巻頭言◇ 北海道新幹線で在来線は

滝野 忠

― 国鉄「分割民営化」の帰結 ―

辺野古「和解」と「本土」民衆運動の課題

毛利 孝雄

高濃度汚染水のゆくえ

原 野人

― 東電と規制委による糊塗策の結果 ―

政党再編と参院選

生産性三原則そして産業報国会

編集部

― 一六春闘総括への視点(二) ―

読者からのおたより

「社会通信」発行体制の変更について

No. 1215 (二〇一六年五月一日)

◇巻頭言◇ 職場活動をはじめよう―何から始めるか

杉森 弘之

フィデルの寄稿

訳 富山 栄子

― 米国からの贈り物は必要ない

― 兄弟オバマのキューバ訪問について ―

佐野 周二

輪作破壊で十勝農業崩壊も

― TPPと北海道農業 ―

原 野人

マルクスと向坂逸郎と梅原猛

蓑輪 泰臣

新書紹介 『新幹線開発百年史』『運転室の安全管理』

読者からのおたより

No. 1216 (二〇一六年五月一日)

◇巻頭言◇ 選挙は正直 流した汗の量と質で結果が出る

— 牧田まさき選挙総括 —

これが自衛隊の実体だ

— 「十勝(帯広)講演会」で元自衛官語る —

『資本論』を味読しよう

— 資本の蓄積はどこから来てどこに返るか —

苦しさを笑いに変える明るさとパワー

— 「兵庫たたかう仲間の集会」から —

『旬刊 社会通信』 ホームページに期待する

読者からのおたより

小林 義昭

佐野 周二

原 野人

武庫川ユニオン

山下 俊幸

No. 1217 (二〇一六年六月一日)

◇巻頭言◇ 『資本論』発刊一五〇年

二〇一六年五月と一八九〇年五月

— メーデー考 —

ブラック土業の暗躍を許すな! (上)

全昭和電工千葉工場闘争と今

— すさまじい「合理化」攻撃の中で —

二〇一六年五月三日

読者からのおたより

茨城ユニオン

山下 俊幸

編集部

No. 1218 (二〇一六年六月一日)

◇巻頭言◇ 資本主義経済体制の「危機」

— G7の経済論議はウスツペラー —

現代政治と参院選

— 「立憲主義」について —

革命五八年の年

— キューバ共産党第七回大会閉会にあたっての

フィデル・カストロ・ルスの演説 —

社労士 競争はげしく

— ブラック土業の暗躍を許すな (下) —

びわ湖一周デモ「私も何かしないではいられない!」

— 反原発デモ・史上初貫徹! 五日間で七〇〇人参加 —

米軍元海兵隊員による沖縄女性殺害

— 十分な対応と真相究明、米軍の撤退を求める要求書 —

読者からのおたより

滝野 忠

編集部

訳・富山 栄子

茨城ユニオン

稲村 守

No. 1219 (二〇一六年七月一日)

◇巻頭言◇ 科学的社会主義と俗流社会主義―なぜ逆戻りするののか?―

原野人

「生産性三原則」批判こそ―一六春闘、連合運動への総括視点―

滝野忠

◇小原稔さんからの手紙◇

小原稔

― 国労運動の過去、現在、未来― 一歩前に入る戦いを―

「沖繩の思い×沖繩への思い」No.12

毛利孝雄

『どの故郷にも戦争に使う土砂は一粒もない』

― 辺野古埋立土砂搬出反対全国連絡協議会・沖繩学習交流集会レポート―

稲村守

― 四〇数年ぶりの美浜集會に三〇〇人!―

読者からのおたより

No. 1220 (二〇一六年七月十五日)

◇巻頭言◇ マルクスと向坂逸郎―現代社会の政治と労働者①―

滝野忠

どこまでも無責任な国家と電力資本

原野人

― 破裂を招く老化原発の稼働延長―

◇資料と解説◇六・一九「沖繩県民大会」と「慰霊の日」

賃上げはウソだった

N関労

― 制度改悪で年収減額つづく NTT東日本―

「不可知論」!? ― 犯人は独占資本―

伊勢太郎

英国に雷が落ちた

編集部

― ヨーロッパ分離・独立の背景と本質(上)―

読者からのおたより

No. 1221 (二〇一六年八月一日)

◇巻頭言◇ 労働者が絶対的多数なのに―現代社会の政治と労働運動②

滝野忠

俗流な社会主義論

稲村守

― 21世紀になったら「必然」や「法則」は消滅するののか?―

俗流経済学からの脱却を願って ― 現実を隠蔽する現象形態―

宗近

民族そして国家主権とEU

編集部

― ヨーロッパ分離・独立の背景と本質(中)―

参院選結果、都知事選そして衆院選

◇資料と解説◇大津地裁三度の高浜原発運転停止決定

― 関電は若狭の原発の運転を断念せよ―

〈資料〉関電高浜再稼働裁判 弁護団声明

勝った! さらに「力合わせ」必要―新潟からの報告―

小林義昭

読者からのおたより

No.1222 (二〇一六年八月一日)

◇巻頭言◇ エルダー社員の低賃金を考える

国労上野反合研

長澤運輸事件「五・一三」東京地裁判決に関連して

向坂逸郎・岩井章を訪ねる

蓑輪 泰臣

「弥次喜多道中」第四弾 信州松本編(上)

◇資料 お菜洗ひ―(尋五) 岩井 章

思想闘争をもっと大きく、ていねいに

滝野 忠

―現代社会の政治と労働運動③―

デフレとは慢性的恐慌である

伊勢 太郎

英国、EU離脱交渉のゆくえ

編集部

―ヨーロッパ分離・独立の背景と本質③―

読者からのおたより

No.1223 (二〇一六年九月一日)

◇巻頭言◇ 組織拡大が焦点―組合大会の特徴について

滝野 忠

扉温泉 明神館と国労甲府支部

蓑輪 泰臣

―「弥次喜多道中」第四弾 信州松本の旅(下)―

国労上野反合研

「闘う国労運動再建」へ一歩

―国労結成 70 周年の歴史的な大会―

憲法 そして施設障害者抹殺事件

里内 龍史

―脳性マヒ者「茨城青い芝の会」里内さんに聞く―

読者からのおたより

No.1224 (二〇一六年九月一日)

◇巻頭言◇ 国労70年の歴史と伝統を前進させる

野佐根 浩巳

全国大会 野佐根代議員の方針討論

今改めて「三池と向坂教室」に学ぶ(上)

山下 俊幸

―灰原茂雄、塚元敦義、そして向坂先生―

「高い山」資本論をよじ登る

中澤 秀行

―勉強は原典で 歩みは遅くとも―

桜井勝延市長の歴史的責任を問う

原発事故被害者 相双の会

―福島第一原発事故の避難指示解除に当たって―

読者からのおたより

No. 1225 (二〇一六年十月一日)

◇巻頭言◇ 階級、国家、民主主義

『労働者の世界観』を学ぶ

森 勉

マルクス主義への確信 理論と実践

山下 俊幸

— 今改めて「三池と向坂教室」に学ぶ (中) —

向坂逸郎先生と『資本論』のことども

中澤 秀行

— 『資本論』百五十年 私の勉強法 (上) —

読者からのおたより

No. 1226 (二〇一六年十月十五日)

◇巻頭言◇ 独占資本は惜しみなく命を奪う

原 野人

「三池と向坂教室」を無数につくる

山下 俊幸

— マルクス主義への確信 理論と実践 (下) —

『資本論』百五十年 私の勉強法

中澤 秀行

— 向坂逸郎先生と『資本論』のことども (下) —

読者からのおたより

編集部だより

No. 1227 (二〇一六年十一月一日)

◇巻頭言◇ 「社会通信」の三十九年とこれから

滝野 忠

職場での運動実践について

佐竹 要

— 郵便局という職場で30年間働いて学んだこと —

『社会通信』ホームページの活用と拡散を！

読者からのおたより

編集部だより

No. 1228 (二〇一六年十一月十五日)

◇巻頭言◇ うれしかった 米山氏当選

相田 邦夫

— 新潟知事選 三条市からの報告 —

『もんじゅ』と核燃サイクルの終焉

原 野人

— はかなく消えた独占資本の夢 —

搾取を強め産業予備軍つくる

本村 充

— 今後の「労働者政策」の特徴と狙い —

駅頭で 極右の内ゲバ宣伝合戦

稲村 守

高江 (沖縄) に行ってきました！

増田 都子

読者からのおたより

編集部だより

No. 1229 (二〇一六年十二月一日)

◇巻頭言◇「大衆の反乱」が始まった

―トランプ勝利の背景―

津和さんの賃金論について

―俗流賃金論からの脱却の為に―

◇資料と解説◇

エンゲルス著『正当な労働に対する正当な賃銀』

JR北海道の大合理化始まる

―JR「留萌本線」廃止を問う―

向坂先生、岩井さんのことども

―社会通信の四十年―

読者からのおたより

編集部だより

伊勢 太郎

宗近

編集部

大田 幸一

滝野 忠

No. 1230 (二〇一六年十二月一日)

◇巻頭言◇ 現代も資本主義である、ことを忘れまい

人工知能の資本主義的利用の帰結

フィデルの功績

社会主義的人間・文化をつくった

思想の種まく

原発そして国家の犯罪

―横浜の中学生の生きる勇氣―差別と偏見をなくしていこう―

原発事故被害者 相双の会

沖縄・京丹後・若狭の現地闘争

―橋田秀美さんからのメッセージ―

稲村 守

圧倒的多数の民衆で関電を包囲しよう!

―高浜原発うごかすな! 1・22(日)関電包囲全国集会―

向坂先生、岩井さんのことども

滝野 忠

―社会通信の四十年― (二)

読者からのおたより

編集部だより